明治三十九年十一月十二日第三種郵便物認可　（日刊）　月曜及祭日之翌日休刊　明治四十四年十月二十日　（金曜日）　第八百九十七號（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲二號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久一郎
京城西小門通
發行所 京城新報社 電話大三番
仁川支局 仁川宮町三丁目
東京支局 東京市京橋區…木町七番地

寄書

人類學者泰斗スター博士來る（四）

荷軒學人

△朝鮮研究篤志家と語る▽

淺見君邸にては博士は主人公に誘はれて讀書室に入るや博士は其坐に備へられたる齊趨の煙草箱を指し敢て問ふ之れ朝鮮なりやと主人具に其産出地等を告げられ更に客に問ふに客は如何なる物を見んとの希望なるやと客は先に三宅君に答へられし如く何物にても之れ當我師なりと茲に於て主人公は先づ一大朝鮮地圖を示し歴史上の沿革を概說し客唯々として之を傾聽す然も已に歴史の大要に通じ向鮮に大變遷の時代等を知らるゝものゝ如し而して主人公が三國時代統一時代李朝時代の考證として著名なる碑の搨物を示し說明を勉めらるゝや客は最も傾聽し最も興味を以て着べらるゝものゝ如く主人に告げて曰く余は凡そ三ケ月間此半島に滯在し當地に入り十日間を費やし再び京城に歸り更に南朝鮮に遊ばんと主人公更に朝鮮の古書に付て語るや博士は自己の控帳を出して一々其名を記入し又自ら豫てより確かせし書冊の存在を問ふ主人公は古書刊行會の事業に就き語るや大に可なり實に必要なりと述べ主人公の與へし出版目錄を得て大に欣び更に主人公は朝鮮にては歐米より早く印刷術の開けしことを語り其印刷したる古書を示す客曰く余已に之を聞けり希くは其活版を得たしと主人公は今より凡そ四十年前に行はれし李大王殿下の母君に渡らせらるゝ貴婦人の葬式の時に取行はれたる儀式を印行せし四冊の大形の書物を博士に献げんと之を其手に渡さるゝや博士は主人公の其意外なる厚意には寧ろ驚き果して之を受くは禮に協ふやを同行者に問其可なるを聞くや初めて大に謝する所あり之を受く時に六時三十分に垂んとして燈火已に點せらる博士は七時半に講話の約あるを以て止むを得ず主人公の厚意を謝し座を立ちて更に曰く余夜を徹する迄倘種々なるものを拜見いたしたしと主人公は客に向ひ日本の家は天上低く頭を用心せられんことを博士微笑して答へ否余は日本の家屋に住み付けたれば能く注意して危殆なることなしと。

翌朝（十二日）博士は北行の滊車に乘らんとす記者之を見送らんとて停車場に在り博士は握手すれば開口第一番に語つて曰く余は昨夜淺見君の示されたる碑文に付て夢見る所ありと以て昨日の訪問を欣ばれたるを知るなり。

記者は鴻儒博士の如き紳士の來鮮を欣ぶと共に又三宅淺見兩君等の如き朝鮮研究に篤志を懷かるゝ人士を世界の學者に示すを得るを快とするものなり

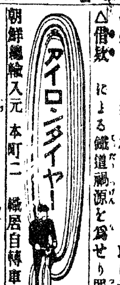
外事一束

△山東 省濟南府の新軍叛旗を翻し湖北の實昌又亂る北京紛亂甚しく大清銀△行取付に逢ひ人心恟々御史は鄧傳大臣盛宣懷及瑞徵張彪を斬て天下に謝△せよと極論し或は革命亂は日本留學生になる郭日本にありとし或は米國△借款による鐵道禍源を爲せり郭米にありとし就れも狼狽を極め殷失態也

△南京 警戒嚴重猶靜穩也東三の趙督率天に歸任し應急に備ふ四百州動き初

△京漢 鐵道保護策として列國の警備に委する說あり京漢電信は己に不通と

△山東 省膠州灣獨逸聯隊戰鬪準備を整へ運りに本國の電命を待つ最注目要



雜錄

●京元線初乘記（上）（十五日）

松琴生

名に聞きて想像にのみたどりし、清涼里議政府等の地、今日京元線の開通と共に、面のあたり其實況を視察し得ることゝなりしは、遊志頓みに動き、幸ひの日曜日折からの好天氣に、何の猶豫もなく、輕裝して宿りを立出で、南大門の停車場へと急ぐ。到り着けば、議政府に於て催さるべき鐵道開通式に參列の貴き方々を始めとして、我等と同じ心の人々ぞ見ゆ、が、三々五々打つゞいて、中々に雜踏を極めぬ。時來りて午前八時初日第一の列車に搭す。常に往來して眼に馴れたる、京龍間の風色も、朝霧の深く立罩めたれば、岡の松影山の姿など亦新たなる趣あり、滊車龍山を出でゝ車窓に倚れば、壯然たる漢江の鐵橋淡霧の中に隱見して其上流にわたりて、新たに架設せらるべき橋梁の足場の魏然として江流の中に立てるを見る、同じ形せる數多立並びたる鐵道官舍の周圍を迂回して東すれば、眼界廣く南方に開けて、漢江の大流を下瞰す、渺茫たる淸流秋を堪ねて、水光遠く[illegible]、朝霧の絶れ間より水煙盛んに立上りて、秋未だ淺き對岸の柳樹を包み殘緑影を水面にひたす漁舟は荻蘆の間より出で、帆船は風を孕み江を逆ぐ、滊車の進むに從ひて江景風物亦趣を變ず、蠶島驛を過ぐる邊江景遠く延びて、岐流柳樹茂れる島を抱き、川の如き碧と並びて流動の極る所、斷崖屏風の如うゝり立つ、其景趣壯大にして恰も水彩畫を見るが如し。以下明三面



梁川庄八（やながはしやうはち）

小金井蘆洲演

第十三回

一同大に悦びまして 一同「マア大變な血だが、若様水の中は何んな容子でごせへました」と口々に尋ねますと、庄八も暫くは恍惚として居ましたが 庄「乃公が水底に潛つて彼方此方と探がして居る中に、姿は碇かと分らんが何だか大きな怪物が體に觸れたから、是れ正しく水魔だろうと心得たから、水底に組伏せて一突二突いたすが少しも乃が這入らんから、三度目には肩口と思ふ處を刺した所が、背腹と思邊まで充分突貫いた大分弱つた容子であるから手早く腰繩を縛り付て揚つて參いたのだから、一同で其繩を引て呉れ」と云者ですから、一同が「エイヤ〜」と聲を擧げて引張ると岸邊の所でガッチリ止て、何分にも重量い者ですから、庄八焦つて手を掛けズル〜と引揚げて見ると、世に珍らしき泥鼈です、甲の徑が六尺頭は大蛇の如く四足の爪は鷲の爪のやうで、甲と腹の間を力任せに刺したのですから未だシク〜息はあるが夥しい出血で其臭さは非常で人々顔を横にして鼻を押へて、庄八の强勇に驚歎した、一同が此死骸は何うした者だろうと、協議區々致して居ります所へ此評判が夫から夫へて擴まつた者ですから、近傍の者が堵の如く集まつて騒いで居る、折から御免下さいましと這入て來た者がある、是は仙臺の城下荒町に住居する香具師の勘兵衛と云男、早くも此事を耳にすると見世物には持てこいの品だから一儲け仕樣と云ので駈付て來たのだが 勘「エ、私は御城下荒町の勘兵衛と申ます者で是非梁川樣に御目に懸りたう存じます」が向で疲勞を休めて居た庄八 庄「何んだ乃公が梁川だが」勘「へヱ御武勇の程驚入ましてございます、就まして一つ御願があつて出ましたのでげすが如何でございませう此泥鼈を私に御拂下げを願たう存じますが」庄「何に致すのだ」勘「御意に御座ります餘り珍らしい泥鼈で御座いますし、今迄多くの人を取喰ひました水魔でげすから、御城下の觀世物に致し世の人の參考に備へ且つ御貴殿樣の御武勇を人々に知らせたう存じますで、相當の代價で手前へ御拂下げを願度存じます」庄「フム然うか乃公は名聞を望む者ではないから武勇を吹聽して呉んでもいゝが、世人に參考に供すると云ふのは結構だ俚人の惑を解くために觀世物に出すは宜かろう、代價は要らぬから持て行け、だが此通り大勢の所の若者輩が農業を休んで手助たのだから、一同へ酒肴の馳走でもして持て行け」勘兵衛悦んだ 勘「有難う存じます左様なら御言葉に甘へまして」と一同へ酒肴の大盤振舞をして、些細な金で此泥鼈を子分を呼んで御城下へ運び、御城下芭蕉ヶ辻と云所へ小屋を掛け觀世物に出す、招きの看板には、水面に泥鼈が大きな口を開いて浮上て居る甲に裸体の壯者が刀を振つて居る繪を描いて、梁川庄八正國丈梁川庄八大先生抔と云大幟を數本立てゝ、木戸番の者が看板を敵き立て 木「サア〜是れ覧ろじませ是は此度阿武隈川藤ヶ岳の女夫ヶ淵で當國の勇士梁川庄八正國大先生様が御退治に相成ましたる泥鼈でござい……永らくの間多くの人を取喰いましたる女夫ヶ淵の水魔でござい、見るは一時話は末代に殘るサア〜評判〜〜」と怒號立る者ですから、人々競つて見物に來る大評判、香具師の勘兵衛大儲をした、一日庄八評判を聞て芭蕉ヶ辻へ來て見ると自分の姓名の幟が立て居るんで驚いた

庄「コレ〜勘兵衛乃公の姓名を現した幟は亂法だな」勘「オヤ是は先生樣でございましたか、誠に恐入ますが斯樣御名前を拜借致ませんでは物が大仰になりませんで、儲りません者ですから何うぞ御赦しを願ます、マア何うぞ此方へ御蔭樣で大儲が出來まして樂が出來ます」と庄八を木戸の高場と云所へ揚げて酒肴料理を取寄せて馳走をする庄八笑ながら酒を飲んで居ると、其內に木戸番が怒號初めると、ゾロ〜見物が這入る 木「サア御覧じませ此方に居でに成ますのが梁川庄八正國大先生樣だ此た方樣がれ退治に相成ましたる泥鼈でござい評判〜〜」庄八愈驚いた 庄「コレ〜乃公を觀世物にするな酷い奴輩だ」呆されて立歸つた、御城下御領分の大評判となりますと、城中からも見物に來る、歸つて行て噂さをする、何時しか政宗公の御耳に達するやふな事になりまして、愛に新らしき一條の物語が出來る一席は明日

廣告

京城新報

病氣罪惡論

特に上流社會に於て

過般、大隈伯は東北地方遊説の途次某所に於て、中學校生徒に向て「不誠の精神を以て努力するは誠に國家社會に對する本分なり、余は弱き天才の出づるを期せざるも、中等國民として有爲の精神の活動を望む、而して此の目的を達せんとせば先づ身體の健全に努めざる可らず、運動及び智德の如きは必ずしも困難ならざれど、病氣は一の罪惡なり、病氣は一の罪惡なりと言ふ時代に於て來るべければ、諸君は此點に能く留意して可なり」と論ぜしと云ふ、流石に偉人伯の言ふ所、寔に至言と謂はざる可からず、國民の健康は國家の盛衰に關し、國民の體力は國家の隆替に關す、縱令非凡の精神と智識とを有するも、身體の健康を害するときは萬事皆休し、個人としての責任は云ふまでもなく、國民として國家社會に對する責任を全うすること能はざるに至る、故に伯が病氣は一の罪惡なりと云ふは勿論、現に社會に立ちつゝある者に取りても亦然り、病氣を以て一の罪惡なりと看做して可なり、吾人は伯の此講演を借りて、冷汗背を濕ほす者の多きを知る。凡そ國家として、完全なる國民を要するは論を俟たず、健康の保全は國民の一大義務なり、吾人は獨り國民の健康を以て個人の問題と爲さず、國家の問題として之を論ぜんと欲す。

[illegible]

北京特電

▲討伐軍の南下　官軍一萬人は革命軍討伐の爲め保定府を出發南下せり

▲奉天師團出動　北京政府は奉天二師團に對し動員令を下せり九月二十日の朝日中湖北に向け出發すべし

▲兩軍の交戰　艦隊を率ひて漢口に到着したる提督薩鎭氷は武昌革命軍を砲擊し交戰數時間に涉れるも勝敗なく休戰したりとの公報あり

▲革命亂と排日思想　革命黨の叛亂に對し淸國官憲は排日思想に傾ける模樣にて殊に半官報たる北京日報及英字紙は日本は淸國の叛亂に乘じ大野心を果さんとする記事を掲げたり

▲上海金融界恐慌　目下上海の各支那銀行は激烈なる取付に遭ひ支那人發行の手形は吐絶し外國銀行も亦幾分の取付あり大恐慌を來せり

▲大淸銀行の苦心　大淸銀行は漢口大淸銀行及交通銀行の破綻に遭ひたるを以て預金集收に苦心せり

▲京漢鐵路破壞さる　京漢鐵路は革命黨の爲めに信陽以南は全部破壞されたり

▲袁世凱辭退す　袁世凱は三度總督就任を固辭したり

▲淸國借欵成立難　淸國政府は軍費金不足の爲め五百萬圓を英米佛獨の四國銀行に交渉中なるが米佛兩國は三ヶ月の期限にて承諾したるも英獨は躊躇の態なり

▲革命黨志願者　漢口にては革命黨志願者頗る多く民心は革命軍に歸し官軍の逃走者降參者等續出す

▲官軍新編制　淸國政府は更に二、三軍の編制に着手す濤貝勒之が統裁官たるべし

▲京奉線破壞？　京奉鐵道新民府？以南破壞され討伐軍は瀋陽に下車す

▲上海金融逼迫　上海の金融益々逼迫し銀行日歩は六錢に騰貴せり

▲京奉線乘車謝絶　京奉鐵道は軍隊輸送の爲め旅客の乘車を中止せり

▲居留地防禦　漢口居留地内外は防禦工事を施し山上には砲壘を築きつゝあり

▲革命軍の活動　革命軍の主力は二つに分れ一隊は漢口より九キロメートルの江岸停車場を襲ひ官軍の爲めに擊退され負傷者三百名を出せり又一隊はコウカンケン停車場を攻擊し之を占領せり此占領は官軍の作戰狀態に大なる打擊を與へ

東京電報

▲新年御歌會御題　十九日、明年の新年御歌會御題左の如く仰出さる

松上鶴

但し明治三十三年の御題に同じ

▲外務軍務密議　陸海軍省の兩軍務局長は外務省に赴き淸國の内亂に就き秘密會議を開けり

▲叛軍武器製造　北京來電に依れば漢陽の兵工廠は日々二萬五千の彈藥を製造しつゝあり又百四十門の野戰砲の製作已に成りたりと

▲第一鎭出陣せず　上海來電によれば第一鎭は滿人より成る精兵にして淸廷の最も股肱とするものなれば之をして動亂を治めしむるは不得策なるを以て頗る精良なる第六鎭に新に保定の二鎭混成旅團と馬廠の四鎭を併せて二箇師團を派遣する事に決せる旨其筋に情報ありたり

▲四川危機に迫る　上海來電によれば四川總督趙爾豐は四川の形勢危ふしとの電報を北京政府に發せり

▲大連の銀行取付　大連に於ける大淸銀行は午前より俄かに

雜報

●十月上半期の朝鮮貿易　總督府調査に係る本月上半期に於ける各港灣を通じての貿易狀況を聞くに輸移出五十三萬三千〇十六圓同輸移入二百六十三萬八千二百八十七圓なり尚ほ之れを本年一月以後の累計を示せば輸移出一千四百六十萬四千四百八十圓輸移入累計四千〇四十五萬二千七百十二圓なるが之れを昨年度の同期に比すれば輸移出に於て百三十一萬二千五百八十九圓を輸移入に於て一千三百〇三万六千四百八十一圓の增加を示せる次第なりと云ふ

●鴨綠江鐵橋開通式と總督　鴨綠江鐵橋開通式は愈々十一月一日を以て新義州に於て擧行寺内總督も臨席の筈なるが恰も同日は對岸安東縣に於て安奉線の開通式も擧行の筈なれば當日の兩市街は極めて賑ふ事なるべし

●滿鮮煙草の調査　滿洲各地にては昨今我官製煙草を排斥せんとする傾向あり朝鮮にても又英米トラストの激しき競爭なるを以て此際滿鮮地方に於ける煙草の狀況を調査すべく大藏省專賣局技師石井淳二郞同參事今北策之助の二氏は滿鮮出張を命ぜられ十八日夜入京巴城館に投宿したるが一週間當地方面に滯在し北行すべしと云ふ因みに東亞煙草會社々長佐々熊太郞氏も一行に隨ひ入京したり

別項「東京電報」所報の如く新年の御歌會御題は「松上鶴」と仰出されたるが本紙は例年の如く右の御題により一般讀者諸君の

詠を募集し新年の初刷紙上に掲載すべきに就き今より推敲を凝らし置かれたく豫め謹告す

●滿鐵會社伊公二周年祭　滿鐵會社重役及び居留民は來る二十六日故伊藤公の偉を偲び兼て公の偉靈を弔ふため藤公薨後の二年祭を行ふべしといふ

●牛島大豆作と棉作　本年の大豆作及棉作に就き本日農商工部の發表せるもの左の如し

▲大豆作豫想　本年の大豆作は地方により多少の風水害を被りしものありしと雖も氣候概して順調なりしを以て西北部の一部を除く外各地共生育及成熟の狀況良好なり十月十日の現況に徵するに其の收穫豫想高百九十六萬七千二百五十五石にして昨年に比し八分三厘一昨年に比し二割八分三厘の增收あり左に前二箇年分との累年比較を掲ぐ

年次	實收高
明治四十二年	一、五三三、〇二七石
明治四十三年	一、八一六、五八二
明治四十四年（豫想）	一、九六七、二五五

▲棉作豫想　本年の棉作は降雨の爲多少害を被りしも氣候概して棉作に適し殊に主產地たる全羅南道に於ては其の生育及開絮の狀況良好にして前年收穫豫想高四百十万五千四百九十四貫にして昨年に比し九割七分三厘一昨年に比し四割一分九厘の增收なり左に前二ヶ年分との累年比較を掲ぐ

年次	實收高
明治四十二年	二、八九二、五七二
四十三年	二、〇八〇、九一一
四十四年（豫想）	四、一〇五、四九四

●人蔘の收納高　朝鮮總督府專賣局開城出張所に於ける本年度水蔘（生人蔘）收納事務は本月三日より開始し同十五日を以て全部終了を告げたるが其の收納總斤數七千七百十九斤耕作者への賠償金額三萬六千七百六十圓五錢にして一斤當賠償金四圓七十六錢二厘に當り前年に比し約一割の高價を示せり是れ本年は天候の和順を得て人蔘の生育殊に良好なりしに依ると雖も數年來人蔘病害の豫防治療其の他諸般の獎勵施設等機宜に適したる結果收納斤數豫想外の二倍に上り且前年未聞の優良品を產出し三四本を以て一斤に相當する大蔘根もありて一般蔘圃耕作者は大に滿足しつゝあり然して收納水蔘は目下紅蔘に製造中にて今明日に終了の筈なるが紅蔘二千六百斤其價格約二十万圓なるべしと

●南淸動亂と朝鮮貿易　淺野三井支店長談

南淸の動亂が朝鮮に取つては現今のところ別に之れと云ふ影響もなく又確乎とした判斷を下す譯には行かないがヽツ動亂によつて面のあたり現はるゝものは銀の相場の變動であらう又戰爭が秩序立つて來ると紙幣では不便であるから勢ひ銀の需用が殖ゑるだらう現に上海に於けるメキシコドルが從來八十五六ドルの間を上下して居つたものが昨今では七十七ドルに暴落したといふ夫れがあらぬか在日本内地の淸人は貨幣を上海に輸出して居るといふ噂さへある又銀が變動すれば爲替相場が變動する譯だが更らに一方には金の需用も殖ゑて來るだらう貿易の關係は支那に取つては勿論影響を及ぼして居るが朝鮮に取つては影響はない否な寧ろ好影響を及ぼすであらう上海の市場にある綿糸綿布等は動亂の關係上思つたやうに捌けぬから案外廉く輸入さるゝだらうと云ふものに取つては損害を蒙るかも知れぬが夫れは極めて僅少であらう綿糸綿布は三品期を通じて十二三圓臺下つた夫れから度支部との契約の人蔘は最早捌下期に近いて居るが是等は時機を見て賣出す迄芝罘の倉庫に貯藏して置くのであるから動亂とは何等の關係はない要するに此度の動亂は餘り大した事にはなるまいと思ふ

●古建物取毀に就て　近來建物其他工作物の取毀處分の申請を爲す者多き由なるが右の中歷史上又は學術上特に保存を必要とするものあるを以て目下總督府に於て夫れ〳〵調査中なるが各道廳及び一般官廳に對し充分注意ありたき旨政務總監より通牒を發せり

●學校長職員任命　京城專習學校、高等普通學校及其他各學校の校長及敎職員の任命は諸學校規則が十一月一日より實施さるゝ筈なれば多分同日發行の官報によりて發表さるべし

●シドニー氏來京　英國經濟學者シドニーウエッブ氏夫妻は十八日午後八時南大門驛着入京ソンタクホテルに投宿當地に二三日間滯在視察すべし

●總督とシ氏　寺内總督には二十日午後一時より別項入京のシドニー氏夫妻並に當地英國總領事を主賓に山縣政務總監同夫人小松外事局長同夫人外波少將同夫人兒玉會計局長同夫人藤田副官菱田通譯官を招待し午餐の饗應をなすと

●仁王山砂防工事　京畿道にては西部仁王山の砂防工事を爲す事に決定し既に總督府の認可ありたるを以て兩三日中に起工着手の筈なるが其延長は約三千餘間なりと云ふ

●陳通譯官片談　淸國總領事館淸國動亂に就て…

中淸の動亂は本國政府より何等の通信に接せざるを以て僅かに新聞を綜合して事情を推察するのみだ、武昌漢口は江を挾み交通の要衝に當り沃饒なり新聞の報ずるが如き狀報ならば事態輕忽に附す可からずと雖も由來戰報誇大に陷り針小棒大の弊常なれば多大の割引を以てせざれば眞相計り難し、然し袁世凱新に起ち陸軍大臣蔭昌兵を率ひて南下せば聲望威克く旬日ならずして動亂を鎭定せん事疑なく、深く憂ふるに足らず、而して中淸動亂と朝鮮との關係に至つては輕微云ふ程の事なし、淸人にして在住するもの約三萬人山東省人其九部を占め他は廣東人多し、山東省芝罘より二十七八時間にて朝鮮沿岸に達す可きを以て往來せし慣習

●朝鮮馬改良不急務　朝鮮の馬匹は全道に於て約三萬五千餘頭なるが殆んど全部は朝鮮種にして改良種など數ふるに足らざるが昨今大に畜牛改良等に鋭意しつゝあるに係はらず馬匹の改良には着手せる者なきの狀態なるが右は朝鮮目下の農民が貧弱なる生活程度にては到底大なる改良馬匹を飼養し得ざるべく且つ從來朝鮮にては農耕に馬匹を使用せざるを以て今日にては朝鮮馬改良の必要を認めざるがため也と

●御苑博物館竣工　李王家の御苑に於ける博物館は新營中なりしが工事大に進捗し來り廿五日迄に殆んど全部竣工すべく貴重書畫類は主として該館に陳列すべしと云ふ

●決算報告審査終了　京城民團四十三年度の決算報告は開來委員の手に依つて審査中なりしが愈々十八日を以て終了したりといふ

●京城民團公設電燈　京城民團にて夜間交通の便を圖るため街路及公園の各要所に點火せる電燈數石油燈數瓦斯燈數を掲ぐれば電燈百三十五個石油燈五十個瓦斯燈一個にして一個年の點燈料一千五百九十一圓なりといふ

●京龍の霜害　京城龍山方面は去る九日以來數度の降霜あり農作物中白豆高粱胡椒蕎麥等の被害尠なからず特に白豆の如きは結實を防げられ且つ被害區域も大なりと

●外人觀光團の入京　米國實業家の日本觀光團員九名は内地の觀光を終へて十八日午後八時十分南大門着列車にて入京したるが二三日滯在すべしと云ふ

●矢野稅關長の入京　鎭南浦稅關長矢野義二郞氏は事務打ち合せのため十八日入京せり

●仁川學校修學旅行　仁川高等小學校二學年生及商業學校年二學生は校長及職員引率し修學旅行の爲め十九日午前六時十五分仁川驛發列車にて觀察に上り同夜開城一泊廿日歸校の豫定なり

●宗演師と愛國婦人會　愛國婦人會鮮本部にては同會員の爲め目下滯京中の釋宗演師を請じ二十一日午後三時より京城ホテルに於て講話會を開催する由

●群山の赤十字支部會　群山にては十七日赤十字社支部會を開催し頗る盛會なりしと

仁川港出入船舶

△吉辰丸　二十日唐津より入港
△巴丸　同　小樽より入港
△樺太丸　同　大連より入港
△群山丸　大阪へ向出港

公人私人

△矢野久二郎（鎭南浦稅關長）　十八日投宿浦尾へ
△尾圖明（國民新聞理事）　同上
△澁芳政（辯護士）　同京城ホテル
△北井波治目（同）　同
△高瀨梅吉（朝鮮銀行大阪支店長）　十八日釜山へ

▲京城手形交換高

月日	金高	枚數
十月十九日	一九五、八三七、二〇〇	七九八

▲治外法權▼

支那の革命的動亂が、ドー結末を附けるダロー、現下何人も疑問としつゝある。が、記者の私見を以てすれば、朝廷が兜を脫ぎ、滿漢勢力の平均へ落付くのダロー▲革命軍の勢なりとは云ひ北京を拔くことまい、ト云つて官軍が革命軍を奪ると云ふことも亦た中々に出來ぬトコロで物には何んでも道遇が滿漢勢力の平均なんぞが、まア點だね▲革命軍と云へば、彼等は金として軍票を出しつゝある其軍票なるものを見ると、支那政府は一ケ年後に於て、廣東の……くは海外に於ける其代理者により票と通貨に引換ゆることを約して何が書いてある▲サテ右に因る軍は一ケ年後に於て其政府をの考と見ねる、ダガ彼等の……旨く運ぶかドウかは疑問だ▲……置き西鄕戰爭の時に軍票を……で引換へて大に儲けたものが……を思へば今度の軍票なぞも……は嚥買占をヤツて居る事で……城日報其紙上に於て釋禪師を……恰かも浪速節の雲入道の如く……の目には高僧もデロレンも……は、サテもサテも無禮至極の……痴漢。

●本願寺經營 行路病者收容所の三十分

白面子(六)

假令如何なる事情があつたにしても行旅病者として他人の袖の下に庇護を受ける者は決して保護者と同一の權利は無い出來得る限り謙讓の徳を守らねばならぬものだ、然るに數の中には行旅病者として收容されたる或る意味に於ける社會の落伍者、**最弱者**たる**身分を忘れ**僧侶を罵しり**民團や漢城病院へ怒鳴り込**むなぞ云ふ不法とも狂暴とも言はう樣なき行爲を敢てしたものも有る相だ、尤も一方から云へば謙讓屈服してるを奇貨に愈々凌辱を加へたからの反抗心からかも知れぬが、夫れは第三者の聞いて以て諒とする所で決して被保護者として穩當の所爲でない身分と境遇とを忘れたる愚人の擧たる誹は免れまい注意すべきである、夫れから此の救護の事に從ふ人の心得べきは決して「俺は彼等を救護してるのだ」と毛頭思ふては成らぬ、思ひ内に有れば色外に現はるで面白くない影響を及ぼすからである。

十月十日正十二時

約束に依つて十日の正十二時再び收容所を訪ふた、勿論當日は香水を夥しくハンカチーフ、洋服等に打ち撒いて防臭の用意を遺憾なく整へてである、患者の一人たる彼れは既に門前に待ち受けて居て診察室まで上つて呉れと云つたが僕は可成ならば此所が好いと主張したので本堂の椽端に列んで腰を下して問答を初めた 記「收容患者は男十、女一と云ふが内、外科の區別は」○「**内科が八名が外科が二名**」と答わた、併し記者、調査に依れば外科八名内科三名と聞いて居たのだが夫は先づ夫れとして 記「看護人又は炊事夫等は」○「炊事夫韓人一名日人小使一名居るが小使の不親切と生意氣とは實、堪られません」記「不親切及生意氣の程度は」○「患者を浮浪者と罵倒し寄附物品をも胡魔化しかねる」記「**患者收容後の經過**は」○「**八月二十日以來**一人も退院せず既に**五名死亡**しました」記「擔任監督僧侶は」○「松谷」記「經營費は」○「食費は本願寺にて擔任し其他は民團に負擔する民團側の病舍事務擔任者は淺野書記です、而して食費等は表面本願寺の負擔なるも其實は行旅病者收容所援助會とか云ふ名目の下に**會員五十餘名**を有する**團体**ありて**一定の金額**を**喜捨**し猶白米、薪炭、味噌、醤油現金等の隨時寄附もある由なり」記「食物は」○「全体に麥飯にて朝夕ワカメ又は菜の味噌汁にて晝は菜葉の漬物少量のみ」記「重症者も同樣なりや」○「否、**重症者**は**白米**の**力ユ**と**漬物**、**危篤患者**には外に**一日三回片栗**を茶椀に一杯宛を與へ好まざるものには鷄卵一個宛を與ふるのみ」記「**藤富國牛乳店**より毎日牛乳の寄贈ありと聞く如何」○「確に**毎日三合宛惠贈**さるゝも多くは**小使**や**僧侶の血液**となり了す」記「果して事實か」患「決して虛僞に非ず」嗚呼果して事實か、嗚呼果して事實なり(つゞく)

●薄月夜渡雁金

▽三坂通吾妻家の密會

扨も其後情け知りの粹仲居れ君の厚意に依り片時忘れぬ戀しの情人中村さんの手紙を受取りたる君江はさらぬだに中村の不在中落籍されしを濟まぬ事に思ひ居りしことゝて『れ前の爲めにれ芽出度う」と特筆大書された喜びの文句が恨みつらみの百萬陀羅書き列ねられしよりは痛く胸に響きて『ア、濟なかつた』の虫がムク／＼と頭を擡げて矢も楯も堪らず矢庭に机に押し向つて墨を磨る間も閊かしく本町の店からロハで持つて來た奉書の卷紙にヅルリ／＼とナスクリつけた思ひの丈なるものを特別製の大封筒に封じ込めたり此量目四十二匁切手代金四十二錢也さ是以て如何に君江の思ひの丈の長さかを察しねかしであらう、其要領を摘めば御不在中落籍せられたる不都合をサン／＼に詫びたる上『何方にてか一度御見に入りたる上僞りなき眞情を申し上げたく御聞取の上疑はしくも思召さば打つなり蹴るなと叩くなと心任せにした上でモウ勘忍をして遣ると言ふてタンハヽウさせてたべ」と云ふのであつた、之れを受取つた中村さんは昇級の辭令に接したよりも喜び直樣赤紙附を以て「明日三坂通吾妻家まで運びなされよ」との返書は其日の内に君江の手に受取られたり、玆に君江に付けられたる女中のれ何と云ふは實は北内君からの臈目付にして當年四十九と云ふ婆ア盛りのナカ／＼者ながら君江は名に負ふ花月にて鍛へ上げたる強の者なれば切乾婆の一人位手馴付けるに何の手間暇の要らう中村の手紙を受取つた直ぐ其の日『妾明日は花月の姐さん達と西大門外へ遊びに行く約束を致たの本當なられ婆さんも一緒に行くと好いんだけど何分物騷だから困つちもうねね」と一寸簪を拔いて自鬢に頭を掻き乍ら『ア斯ら爲樣、れ姨さんに留守をさせる代りウンと奮るワ、デ何が宜い彼が好いつてぬよりは五圓上げるから何でも好きなものをね」と氣前を見せると夫れとは流石に氣の注かぬ姨さん『老人は花見遊山よりはモウ美味い物の一つも頂戴する方が、エツヘツヘ」と實約濟の齒を剝き出して喜ぶ樣にメたツと思ふむを色にも出さす翌日の午前十一時頃中村さんから奮き送られし輪圖面を便りに三阪通の吾妻家指して迪りけるが假令妾とは云へ云はゞ定まる主ある身の人や見る怪まれやせんかと思へば胸に時うつ思ひ、胸を抱き面を俯せて漸う／＼に情人戀しの一念から人の血を啜る鬼が住むと唄はれし吾妻家へ逃ぐるが如く驅け込み見れば既に大尉は久しき前より待ち居たり(つゞく)

●斧を揮て本夫を斬る

▽加害者は十九の女房

朝鮮人姦夫姦婦が本夫を謀殺せんとして目的を遂せざりし事件あり加害者は京畿道揚州郡下北面餘勿里九統八戸朴基順妻金順伊(十九)及姦夫たる住所不定鍮器行商人李在福(三二)の兩人にして金順伊は被害者たる本夫朴基順に十五歳にて嫁し同棲中なりしが夫婦の情合温かならず常に夫婦喧嘩絶へざりし内本年六月中旬姦夫たる李在福が行商に來り一時私通し其後本夫不在に乘じては私通を繼續し居る内益々本夫朴基順には嫌厭の念を生じ七月中旬一度手に手を取り逃走を謀りしも後日の追跡を慮かり遂に本夫を殺害せん事を謀り十月一日午前五時頃本夫が就眠中を姦婦金順伊は斧を持ち來り頭腦を見掛けて打ち斷りたるも女の力にて遂に目的を遂せず夫に兇器を奪取せられしにぞ最初は發狂の結果爲したりと申立てたるが揚根分遣所の探知する處となり和野內特務曹長檢視取調の結果謀殺未遂なる事を看破し檢事局に送られ野田檢事の手にて取調中なるが姦夫李在福は未だ逮捕に至らざりしと

●第一樓富枝の心中立

▽相手は萩の石炭商

第一樓本店富枝事奥口とみ(二三)は九月上旬より巴城館止宿山口縣萩の石炭商山根淺次郎に馴染み淺次郎は富枝を落籍し國に連れ歸る約束にて十六日夜迄十日間許り流連して居たが急用ありて歸省する事となり落籍は次の渡鮮期にとて立歸る際富枝は頭髮を切り山根に與へ變心せざる旨誓ひたりと此の親切な妓めが

●世界一周無錢旅行者

▽十六日京城に入る

福島縣西白河郡白河町中町五十三番地渡邊綱紀(二四)は性來の冒險旅行の念抑へるに由なく七月十日東京を發し九月二十四日釜山着一泊の後本月十四日仁川を經て翌十五日入城十六日本社を訪問したり同人は正則豫備中學、同英語學校を經て中央大學に入り卒業後會社員たりし事ありと歐山米水を踏破して歸期は五十年三月の豫定なりと目下長谷川町二丁目石橋利三郎氏方に滯留中なりと

●念の入つた大馬鹿者

▽出齒損ねて蹴飛ばす

大阪府生れ當時京城若草町一丁目百十五番戸平塚佐次郎(三六)は十八日午後十時頃本町五丁目口入屋淀屋新木吉藏方に遊びに行きたるに佐賀縣人島崎りち(二四)が寢臥し居りしに怪しかる擧動に及びたるよりりち子は悲鳴を揚げたるにぞ馬鹿女と蹴飛し警察に訴へられ南部署に拘留五日に即決

●揮發油に火を入れる

▽仁川美濃谷商店の失火

十八日午後六時三十分仁川新町一丁目金物商美濃谷榮次郎氏方にて火を失し已に大事に至らんとせしを常備消防隊驅付け消止めたり原因はスタンダード石油會社に送るべき揮發油二鑵を取出したるに一鑵に破損の個所ありしより人新川藤吉(三三)同大井廣助(十四)が蠟燭を點し其鑵の溶液を破損の個所に注入せんとせしに火を吸込みたるより兩人は驚き硝子戸を破り該鑵を道路に投棄せしかば直ちに大音響を以て破裂したるものなりと尚藤吉廣助の兩名は爲に負傷せりと

●賭博最中を御用

仁川寺町二丁目和田勇助及同內緣の妻小田なつ(四〇)松阪町三丁目高平クノ(六七)黄海道安岳飯道工業宿舍奥田高次郎(三三)寺町二丁目和田勇次郎(五二)外三名は去十八日午前三時頃勇次郎方二階に於て盛に賭博を爲し居たるを宮町派出所の設田巡査が踏込み前記五名を取押へ本署に引致野村警部嚴重取調べの上十九日檢事局へ送られたり

●執行猶豫

元農工銀行寧川支店長小橋薫及松田新太郎の文書僞造行使詐欺取財事件は高橋岡田兩辯護士の熱誠なる辯護と判檢事の同情とに因り小橋は懲役一年松田は同六ケ月に處し二ケ年間執行猶豫の恩典を與へらる

●菊花大品評會

同業京城日報社主催の菊花大品評會は來る二十七八九の三日間景福宮勤政殿廻廊に於て開かるゝ由なり

●燒酎に飲まれる

原籍大分縣大分郡明治村大字小池十六番地當時龍山元町四丁目八十四番地千田寅之介方同居宮崎速見(三八)は十八日燒酎入合と酒五合を平らげ泥醉の上千田に喧嘩を仕掛け亂暴を働きたるにより龍山署に引致せられ醉覺めて後説諭の上放還せらる厄介な男なり

●自轉車泥棒捕る

原籍東京府下荏原郡碑衾村宮田峯次郎(二二)同所三矢快一(二一)の兩名は去十七日京城本町六丁目鮮人自轉車屋より二輛分一日二圓五十錢の約束にて賃借し十八日午後四時頃仁川新町永井及び中川の兩古物店に至り賣拂はんとせしを仁川署の坂下今井の兩刑事が取押へ目下取調中なるが兩人共尚餘罪ある見込なりと

●阿片密造

清國山東省黄州縣當時南部會賢坊駱洞宋玉齡(四五)は阿片密造販賣犯として檢擧され南部署に取調中

●演藝だより

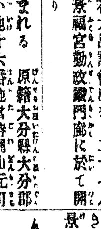
▲壽座 後藤良介一行二十日の代り狂言は十九日同樣『琵琶歌』にして從來演じ來りしものとは大に場面を異にし大に變化に富むを以て一層面白く見らるべし猶別項記載の如く二十日より十一月二日迄は東西煙草會社の愛煙者無料觀劇もあり一層の好人氣なり

▲歌舞伎座 御成座に於て開演中なりし浪花節芝居片岡鶴之助一行は今回新顔三四名を加へ二十日より歌舞伎座に於て開演す初日の狂言は『義士傳の内忠僕直助忠義の刀』全十三場役割如左 津田越前守(嵐)下男直助(多之助)大石內藏之助(駒之助)大野九郎兵衛(澤村)淺野釆女の正(要)

●壽座の無料觀劇

▽東西煙草商會の大奮發

當地夜珠喫なる東西煙草商會にては今回金口挨及具二種(麒麟印スペシアル百本入一圓二十錢、同印ロンテンス同一圓十五錢)を十月十九日より十一月二日迄十四日間大賣出しを開始したるが其孰れを問はず百本入一緘買上げの人には金一圓に相當する壽座後藤一座の無料觀劇券を添附すべし(ロンテンス買上の方は二等入場券)との事なり就ては餘りに思ひ切つたる行り方なれば品質如何あるべきかと一箱を買求めて試飲したるに香氣、飲口ともに佳良にして容器又極めて高尚優美なれば進物にも最適品たるを失はず而して右入場券の通用期間は賣出期間を通じて有効なるべく座方に於ては極めて叮重に御案内申すべしとぞ近頃趣味ある思附きと云ふべし尚ほ此外にも抽籤を以て景品を附すと



▲忠北一週中或る山谷に於て計らずも有力の金鑛を發見したるも無資力にて此が計畫を成す能はず希望者は此が資力を補助し賜はれ方は無きや實地の礦石は拙者の宅にあり希望者は御來談を乞ふ(獨立門通二丁目二階住平邊生)▲貴社發起で京城各團体學校の野球試合擧行されては何ですか何か優勝旗を作りて春秋に於ける全勝組に順次保存さすことにしたら宜敷いでしよう(野球生)▲日本人の一客投書人に告ぐ私の店は朝鮮人の助手は雇いません親切なれば直後の御注意に與りたし仲僞的なればれよしなされよ不親切な客(主人)▲桃山の山陽亭の千代子さん高谷君との會合は少し注意し給へ君しすカキ君に知れたらドウします(心配生)▲明治町の或病院で二三の婦人患者と善からぬ噂ありし爲め放逐せられし一醫員は目下某下宿に陣取つて不良事をなして居ると下女の話し(又聞生)